1997.12.12

尼崎市立小園中学校　第2学年　社会科通信

なんでやねん

発行責任者　金福　忠

No.48

# 享保の飢饉（享保17年　西暦1732年）の被害は？

―― 数字で見る享保の飢饉の被害 ――

『資料集』(p.106)によれば、享保の改革のころの「享保の飢饉」での餓死者は、1万2000人となっている。この数は、江戸時代の諸大名が幕府に差し出した調書をもとに作成された『虫附損毛留書』が根拠になっている。

しかし、徳川幕府の記録書『徳川実記』の記録によれば、享保の飢饉の餓死者数は、96万9900人となっている。この数は、幕府が調査した当時の人口数の動勢ともほぼ一致している。

おそらく、90数万人の人々が享保の飢饉で餓死したものと考えてよいだろうというのが専門家の研究結果である。

享保の飢饉で被害を受けたのは、西日本が中心で、特に中国・四国地方、や九州地方での被害が甚大であった。

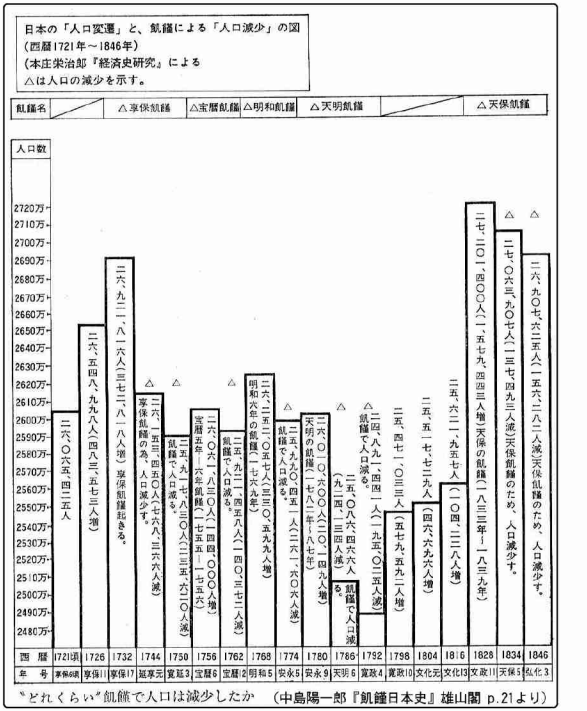
たとえば、豊前小倉藩で70000人、肥前佐賀藩で120000人の疫餓死数(えきがしすう：疫病と飢えで死んだ人の数を合わせたもの)を出している。西海全体の疫餓死数は28万6720人であった。

また、西日本全体の飢民数(きみんすう)は、264万6020人であった。

吉宗は、翌年の享保18年(1733年)に、5700石の米を大量放出して、京都・近畿の窮民(きゅうみん)を救済している。その一方で、吉宗はその後、百姓一揆への厳重な「刑罰規定」をつくって(1741年)、百姓一揆への取り締まりを強化した。

しかし、百姓一揆は増加し続け、享保の時代だけで、177件を数える。なお、江戸時代を通じて発生した百姓一揆は、約3000件といわれている。

もし、吉宗が本当に百姓のために「改革」を行っていたら、このような大惨事がおきたのだろうか？　農薬がなかった江戸時代だから、この「いなご」と「ウンカ」による飢饉は防げなかったのだろうか？　吉宗の「享保の改革」のころには、江戸時代での百姓一揆の中でも最大級の一揆が、関東周辺で起きている。また、江戸城の城下町で、2000人(3000人ともいわれる)もの町人が、米屋などの倉を襲う「打ちこわし」が発生している。もし、吉宗の改革が民衆のためのものであっても、このような事件がおこったのだろうか？

テレビドラマ「暴れん坊将軍」で表現されている、8代将軍・徳川吉宗の「英雄」の姿とは、かなりかけ離れた姿が見えてくるとは思わないか？

飢饉で人口がどれくらい減少したか、次のグラフから読みとろう。